



すが、お金が足りないためあちこちから借金していたのです。最初は利子も安いのを借りていたのですが、段々そういうわけに行かなくなり、高利貸し屋さんからまでも借りていたのです。京都のある高利貸し屋さんでした。お金を借りるには私を信用してもらわねばならないのです。それまでもその人から度々借りていたのですが、幸い放送することになったのでそのことをその人に話したのです。その人は私の放送を聞くためにラジオを買われたのです。電話がかかったというのはこの人からでした。「今拝聴しました。お金は貸します！」というのが放送講座の第一番目の電話だったのです。

それからまた電話がかかったというのです。今度は誰からかかって来たかと思ったら今度は大阪の十三（じゅうそう）小学校の校長小林清次先生からでした。この先生は「国民皆速記」といって中根速記協会から発行していた機関誌に長い間連載しておられた先生でした。中根式速記を国字にせよという人でした。私よりずっと若い人でしたが亡くなられたのは誠に惜しいこと、残念でならないのです。

私が最初放送するとき友成最一という人にいつしよに来ていただいたのです。この人からもお金を借りていたのですが、非常に親切な欲気のない人で、こういう実業家が大阪にいるかと思われるような立派な人でした。お世話になっていたのでいつしよに放送室に入ってもらったのです。放送室は音がしないようにじゅうたんが敷いてあり。そこに友成さんと私とそれに森本信一さんというアナウンサーと三人入って